

ひとはくのこれから

SDGsの達成に向けた6つの方針

ひとはくは、1992年の開館から現在まで、「思索し、行動し、提言する博物館」として、人と自然が共生する持続可能な社会の構築に向けた活動を積極的に行ってきました。これらの活動はいずれもSDGsの達成に貢献するものです。ひとはくでは6つの方針を設定し、SDGsの達成に向けた取り組みを強力に推進していきます。

方針1

調査・研究活動や自然環境情報の収集・活用を通じて、SDGsの根底にある諸課題(生物多様性、生態系サービス、まちづくり、地域づくりなどをめぐる課題)の解決策を考案し、その成果を社会に広く発信・提供していきます。

方針2

学習支援活動や教育普及活動を通じて、SDGsの達成に貢献するリーダーや人材を育成すると共に、こうした人々の活躍を支援する取り組みを推進していきます。

方針3

シンクタンク活動を通じて、SDGsの達成に向けた行政機関、市民団体、民間企業などの取り組みを支援していきます。

方針4

ジーンバンク活動を通じて、行政機関、市民団体、民間企業などによる生物多様性保全活動や森づくり、草原づくりを支援していきます。

方針5

館内の省エネルギー化、省資源化、再生可能エネルギーの健全な活用に向けた取り組みを強化・推進していきます。

方針6

館内のSDGs推進体制を構築し、SDGsの達成に向けた館全体の取り組みや他機関・他団体との連携を強化・推進していきます。

新たな将来ビジョン

人と自然の博物館の使命は「地域を愛する心をはぐくみ、地域の自然・環境・文化を未来へ継承する」ことです。この使命を果たすため、ひとはくは開館以降、自然・生命の尊厳、および人と自然との調和に関する県民の理解を深め、学術、教育、および文化の発展に寄与する活動を積極的に展開してきました。そして、それらの活動を推進するため、「人と自然の博物館の新展開」(2002年)、「兵庫県立人と自然の博物館基本構想」(2007年)、「兵庫県立人と自然の博物館基本計画」(2008年)、「ひとはく将来ビジョン」(2013年)を策定してきました。2022年度に策定する新たな将来ビジョン(以下、新ビジョン)は、上記した方針を継承しつつ、これま

での成果と課題、社会潮流をふまえ、2023年度以降に当館が目指すべき将来像と、その実現のために必要な取り組みの内容をまとめたものです。新ビジョンの作成では、博物館の中堅・若手研究員が中心となり、計100回以上の会議を重ねて熟考してきました。新ビジョンでは、より身近な博物館として県民の皆様にご来館頂くための工夫や、地域により密着したアウトリーチ活動など、引き続き、県民の皆様や地域の皆様と共に歩んで行く方針がまとめられています。また、研究活動や資料収集・活用をより一層強化し、兵庫から、全国、そして、世界に貢献する成果をあげることも目標にかかげられています。

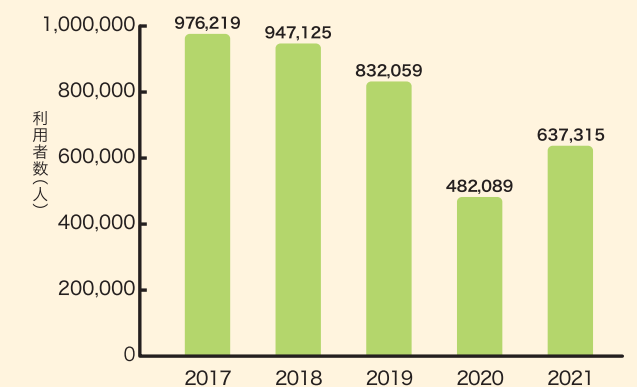
数字でみるひとはく(2017-2021)

※1年度あたりの数値は2017年度～2021年度の平均値

ひとはく総利用者数



総利用者数は、①入館者、②主催事業(セミナー、キャラバン等)の参加者、③共催・協力事業(展示会、イベント等)の参加者を合計した人数(ひとはくのサービスをご利用いただいた方々の人数)です。年間約77万人以上(全県民の7分の1相当)の方々にご利用いただいています。



生涯学習・アウトリーチ みんなの「学びたい」にこたえる！

移動博物館車「ゆめはく」出張回数

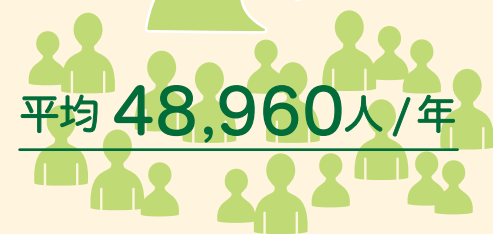
平均79回/年

移動博物館車「ゆめはく」は、展示物を積んで兵庫県を中心に北は岩手県から南は熊本県まで津々浦々の学校、幼稚園・保育所、公園、社会教育施設、イベント会場などに回っています。年間約1万4千人の方々が体験しています。2tトラックが入れるところなら、どこでも博物館です。



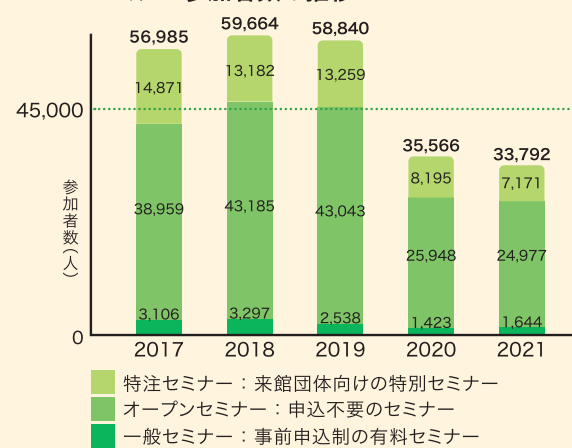
生涯学習・アウトリーチ みんなの「学びたい」にこたえる！

セミナー開催件数



ひとはくでは、野外観察から館内での実習・講義、解説やワークショップまで、多種多様なセミナーを、年間約12,000件実施しています。幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に年間約5万人ご参加いただいています。

セミナー参加者数の推移



来館学校団体数



パートナー・連携 夢の実現に向けて共に歩む

地域研究員・連携グループ

ひとはくは多くの方々と連携・協働しながら様々な活動を展開しています。「地域研究員」と「連携活動グループ」はこのような方々(パートナー)を対象としたもので、ひとはく独自の制度に基づいています。下記の数値は2022年3月末時点の地域研究員数と連携活動グループ数を示しています。



地域研究員 **56人** 連携活動グループ数 **15団体 (236人)**

(2022年3月末時点)

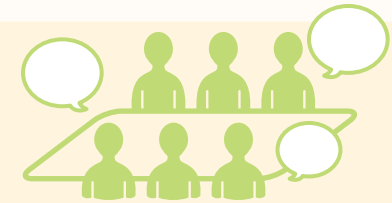
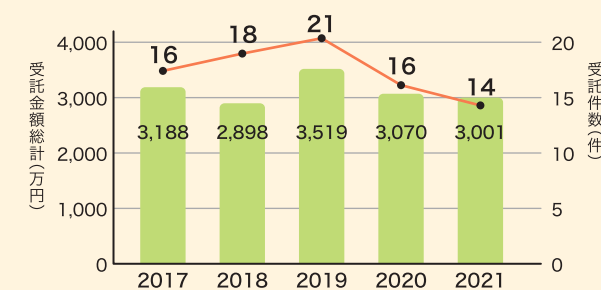
シンクタンク 専門性を活かして地域づくりをリードする

行政委員会等参画件数

平均 **186 件/年**

ひとはく研究員は、地域課題の解決や地域づくりに向けた取り組みを推進するために、国・自治体が設置する委員会・会議のメンバーや行政・企業のアドバイザーを積極的に務めています。上記の数値は研究員が務めた委員会委員・アドバイザー等の合計件数を示しています。

行政・企業からの受託件数および受託金額



ひとはくはシンクタンク活動の一環として行政・企業からの受託研究を積極的に実施しています。上記の図はその件数と受託金額を示しています。2017年度から2021年度までの平均件数は17件、平均受託金額は3,135万円でした。多様な分野の専門家を擁することがこのような活動を推進する鍵となっています。

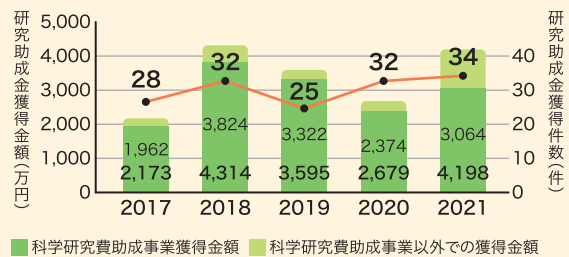
研究 生涯学習と地域に貢献する研究を推進する

学術論文・図書発表数

平均 **50** 本/年

ひとはく研究員は、積極的に研究活動に取り組んでおり、年間約50本の論文・図書を発表しています。また研究資金も外部から積極的に獲得しており、近年ではその件数が30件を超えています。

研究助成金獲得件数と獲得金額



科学研究費題目 (2021年度)

科学研究費助成事業 (ひとはく研究員が代表のもの)

科研費種別	題名	研究員名
基盤研究A	中期更新世初期の気候変動を探索一湖沼堆積物の高精度編年に基づく古環境総合解析	加藤茂弘
基盤研究B	貝殻に住む矮小シクリッドが平行進化した遺伝機構の解明	高橋鉄美
基盤研究B	自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築	三橋弘宗
基盤研究C	恐竜化石産出地域における生涯学習プログラムの開発と体制の構築	久保田克博
基盤研究C	塩湿地の生物多様性保全に向けた絶滅惧植物数種における種子発芽・生育立地特性の解明	黒田有寿茂
基盤研究C	「地域空間の物語性」を考慮したハザード情報表記の適切性評価に関する研究	高田知紀
基盤研究C	機械学習とOCRを用いた植物標本画像からのラベル情報自動取得プログラムの開発	高野温子
基盤研究C	アリグモの種多様性を増大させるアリ擬態効果の解明	橋本佳明
若手研究	下部白亜系篠山層群カエル類遊離骨化石を対象とした分類学的研究	池田忠広
若手研究	縮減社会でのローカル・コモンズの持続的運営に向けたコミュニティ・ガバナンスの形成	衛藤彬史
若手研究	瀬戸内海の祭りにおける海と地域が'つながる'文化的空間の本質的価値と継承課題の解明	大平和弘
若手研究	実現ニッチの進化を説明する新たなモデル	京極大助
若手研究	博物館標本の遺伝情報に基づいた絶滅危惧種の保全単位の設定	中濱直之
若手研究	地方住宅供給公社を活用した公益型タウンマネジメント導入によるニュータウン再生研究	福本優
若手研究	餌資源の分割によるハエトリグモ類の多様性創出と維持	山崎健史
若手研究	海産付着動物の着底場所選択性に関わる遺伝的基盤の解明／研究課題	頼末武史

資料 地域の財産を保管・活用し未来に継承する

総資料点数 **2,045,866** 点 (2022年3月末時点)

植物 **631,747** 点 昆虫 **1,186,620** 点 その他動物 (哺乳類・鳥類等) **66,624** 点 地学系 (化石・鉱物・ボーリングコア等) **134,513** 点 環境系 (古写真・古地図等) **26,362** 点

展示等に活用した資料点数 **平均 16,672** 点/年

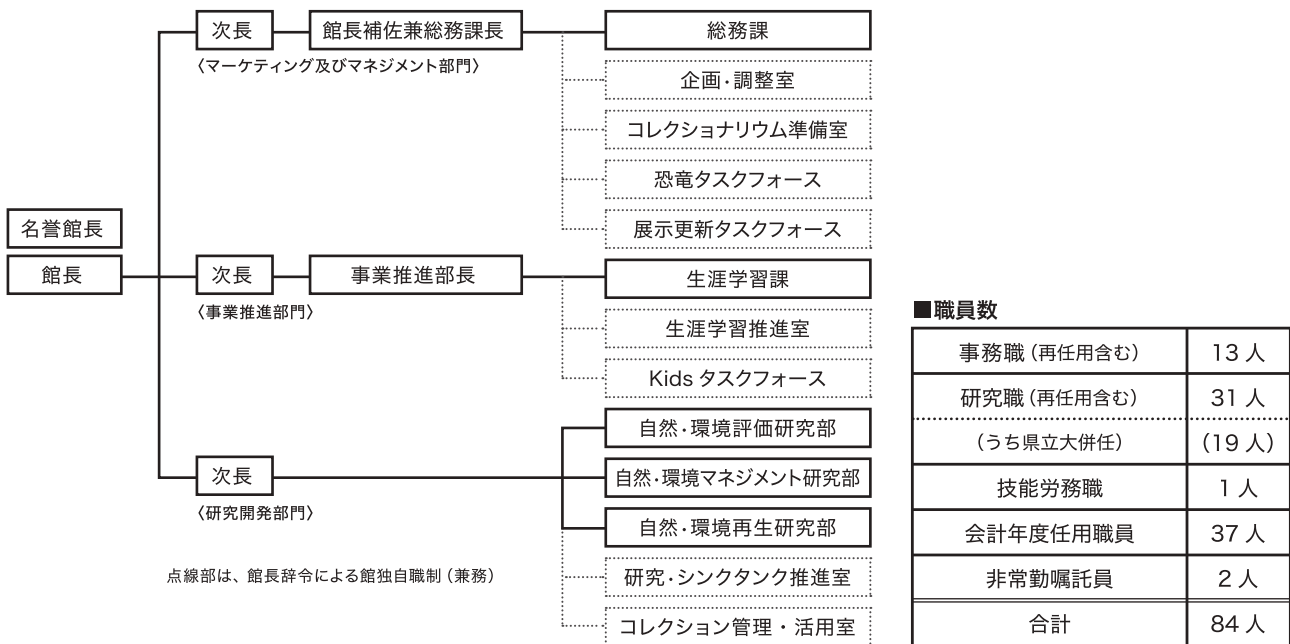
情報発信 情報を積極的に発信し活動内容の周知を図る

テレビ・ラジオ・新聞等への
出演・掲載回数
平均 **690** 回/年

ホームページアクセス回数
平均 **807,000** 回/年

組織体制・施設概要・予算額 (2022年4月1日現在)

組織体制・職員数



施設規模・構造等

■施設規模

敷地面積：44,008 ㎡ (県企業庁 13,936 ㎡+三田市 30,072 ㎡)

建築面積：8,037 ㎡

延床面積：20,460 ㎡

■建物構造

本館：鉄骨・地上4階 (外観設計：丹下健三)

エントランスホール：鉄筋コンクリート

研究・収蔵棟：鉄筋コンクリート・地上3階

ジーンファーム：軽量鉄骨

ひとはく恐竜ラボ：鉄骨平屋

新収蔵庫棟：鉄筋コンクリート一部鉄骨造・3階建

■建設費

施設：6,576 百万円 その他：180 百万円

■展示室等面積

展示関係	4,350 ㎡
教育普及関係	1,375 ㎡
収蔵関係	3,681 ㎡
研究関係	2,185 ㎡
管理関係	349 ㎡
共用部分	8,520 ㎡
合計	20,460 ㎡

予算額*の推移

*特定財源を除く一般財源分

